

ご近所のお医者さん

□
707
□

辻川眼科院長 **辻川薫さん** 一箕面市

小児眼科医として

一般眼科と小児眼科を診療している辻川と申します。夫も眼科医で、彼は研究を中心に大学勤務を続けています。

私は三重大を卒業後、大阪大の眼科へ入局し、翌年には眼科医として淀川キリスト教病院に勤務することになりました。ホ

スピスで有名ですが、元々産科か

ら始まった病院です。NICU(新生児集中治療室)があり、未熟児網膜症や斜視の診療を担当したことがきっかけで、私の医師としての目標が決まり



成長する子どもたち

ました。

生まれたばかりの新生児から、乳児、幼児、学童と幅広い年齢であるがゆえに疾患もさまざまです。できる検査、できない検査もさまざまです。いつも念頭に置いているのは、子どもたちは

成長途中にあるということです。

生まれたばかりの赤ちゃんが急に立ち上がらないことは皆さんご存じですが、ご自分のお子さんにちょっと背伸びを期待していらっしゃいませんか？

どの年齢においても、成長が早いのは喜ばしいですが、こんなこともできないの？ 病気なのでは？ と、心配し過ぎていませんか？

当院にはさまざまなお子さんが来院されていて、みんなそれぞれ、本当に

それぞれです。いろいろな意味でゆっくりにお子さんも、必ず成長してきます。大人たちがもっとゆったり子どもたちの成長を見守れたらと思っ

ただ最近気になるのは、スマホに育児をさせているのでは？ と感じることです。びっくりする程、どのお子さんも、必死で画面に見入っています。

良いことも悪いことも、ぐんぐん吸収しながら成長していく時期に、近くで見過ぎるといふ負担は、将来の近視を誘導してしまいます。

スマホだけが原因ではなく、ものを見るときは、30秒は離してください。

「病的近視」は今後大きな問題になると予想されます。近視進行の抑制としては、戸外で遊ぶことも良いとされています。近くで見ていることが多いようでしたら、一度眼科にご相談ください。